

i. 提案概要

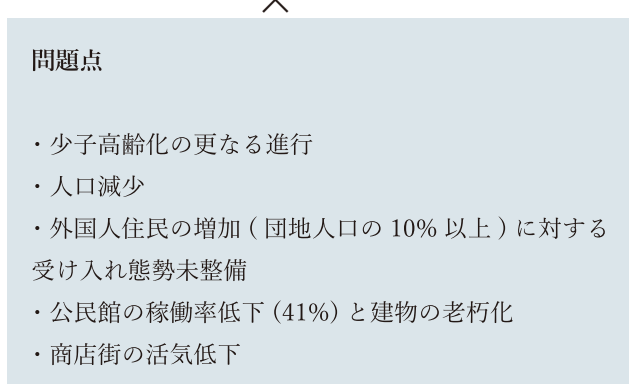
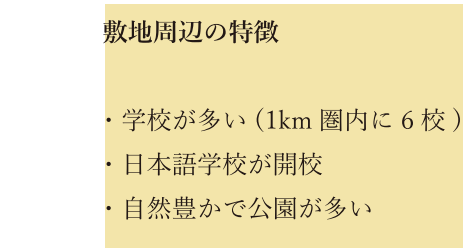
日本の高度経済成長期に建設された団地では、住民の減少や少子高齢化が進み、解体や建て替えが求められるケースが増えている。この問題は長年指摘されていたが、近年では新たに、民間の賃貸住宅よりも入居のハードルが低いことから、UR賃貸住宅などで外国人住民の増加が見られ、それに伴う生活トラブルも課題となっている。このような状況の中で、少子高齢化が進み外国人住民が比較的多く暮らす団地は、将来の日本社会を象徴する縮図ともいえる。そこで、互いの文化を尊重しながら共生できる、地域コミュニティの形成が重要であると考え、多文化共生を軸とした団地の再生を提案する。



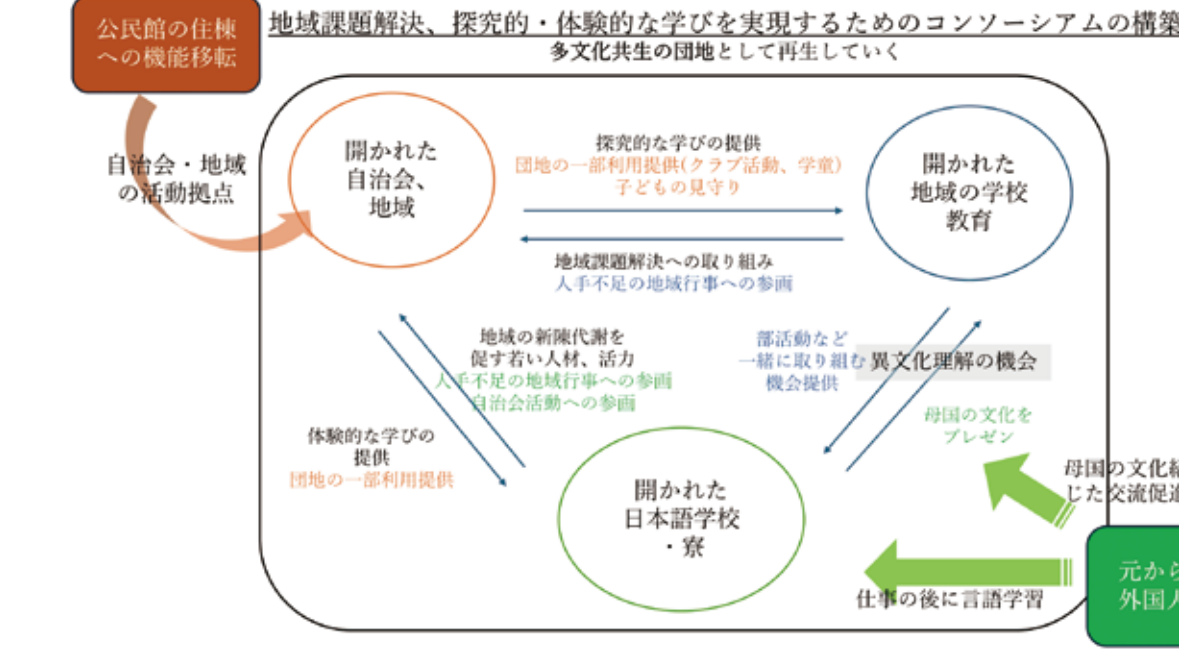
ii. 敷地対象地：

千葉県八千代市村上団地

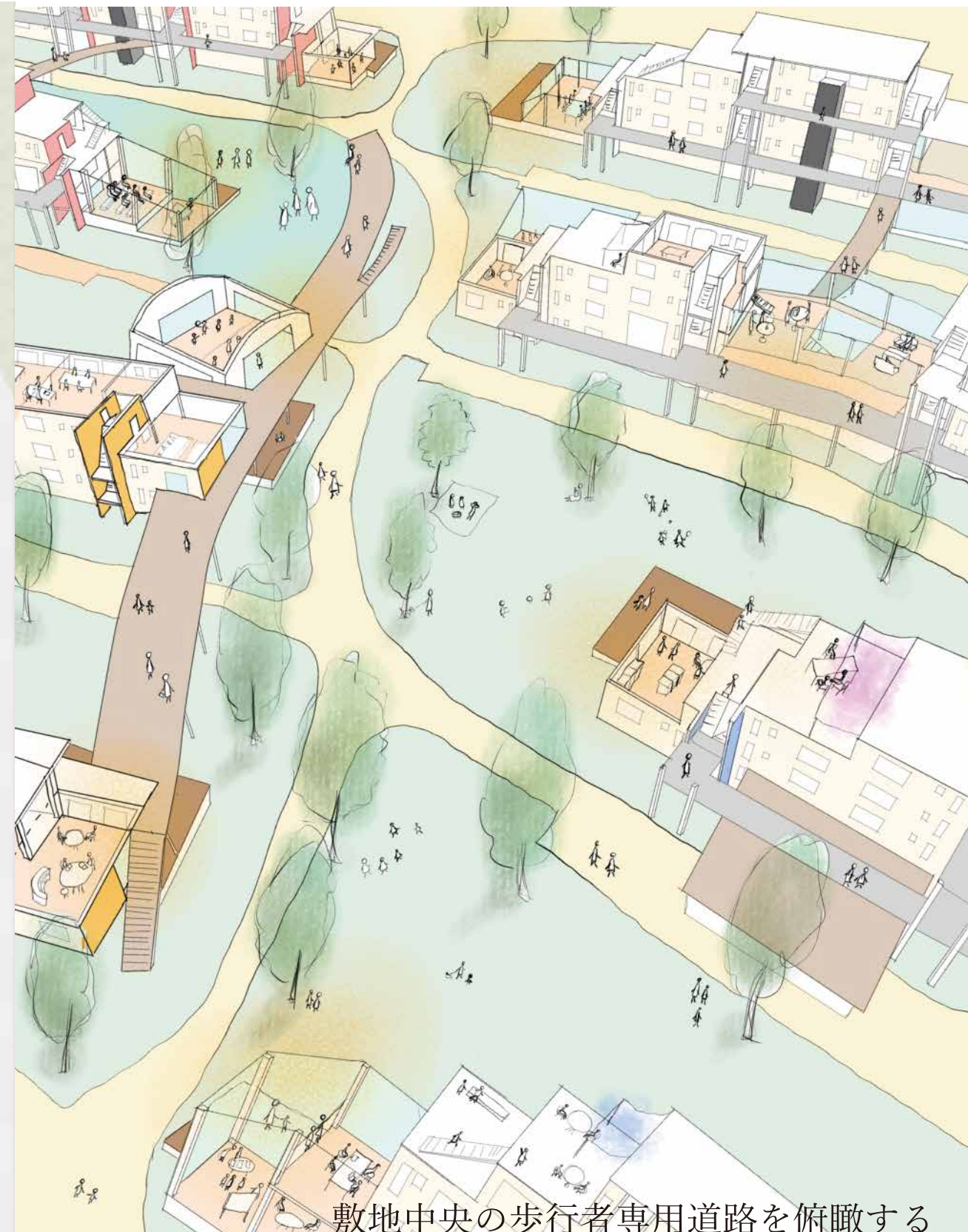
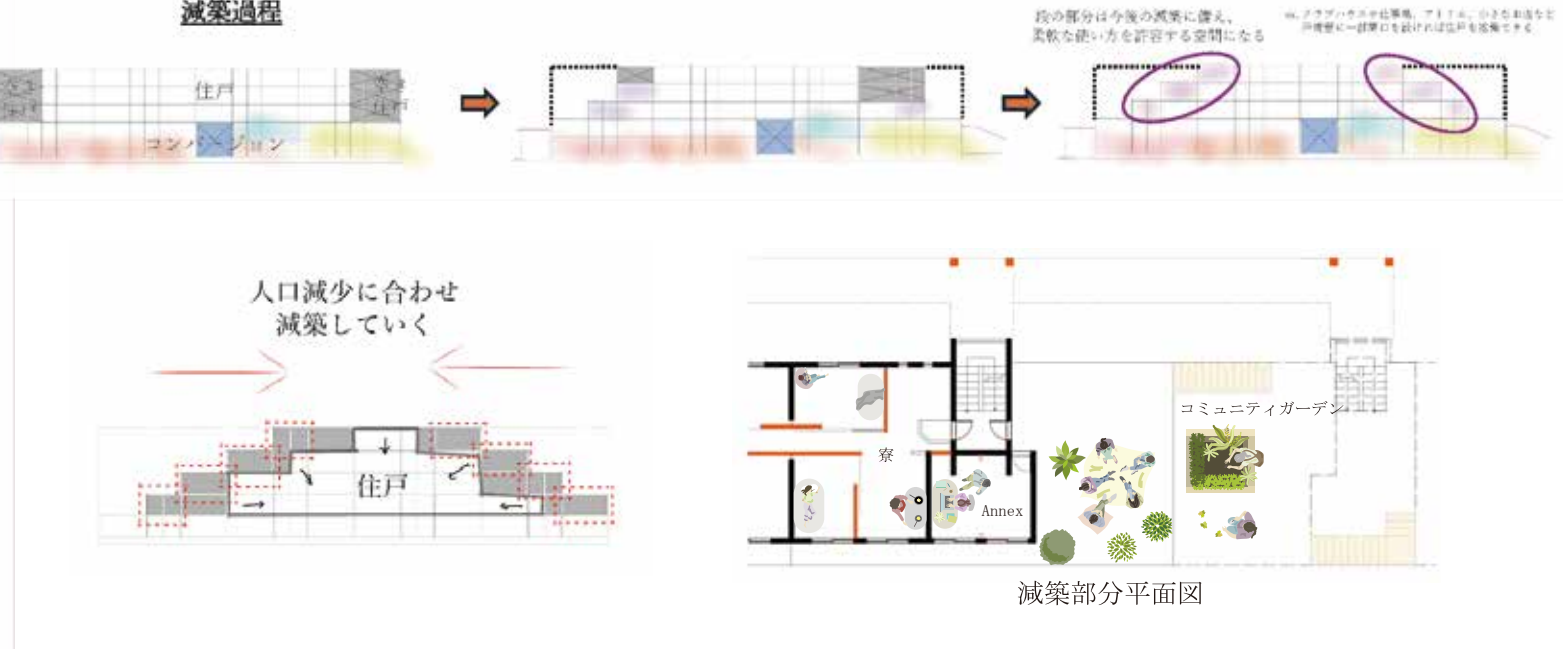
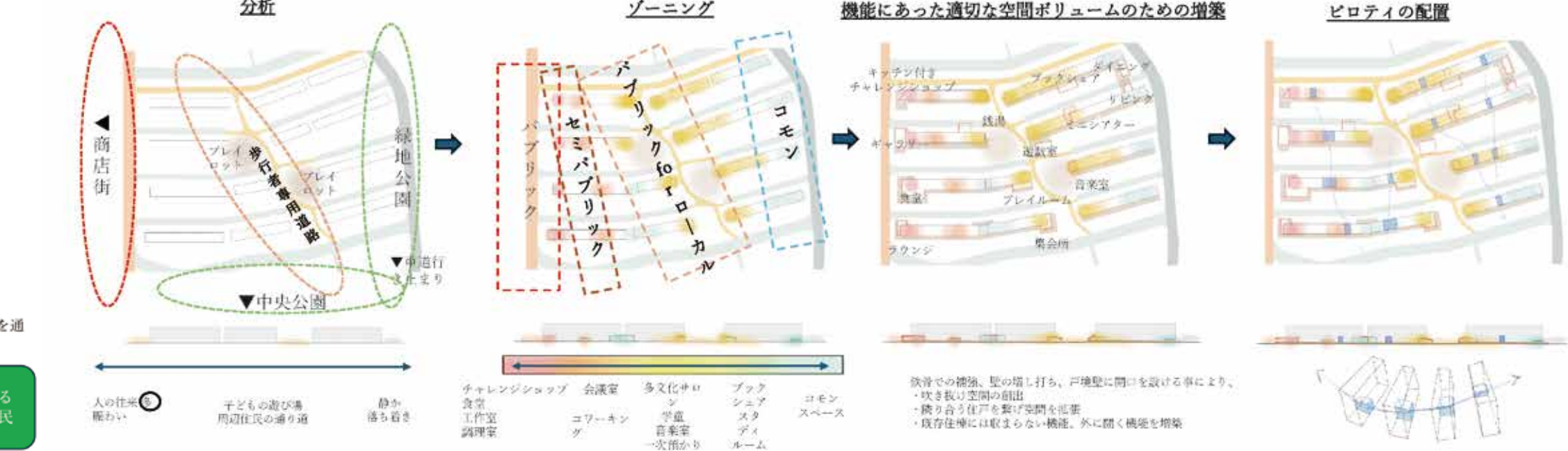
1976年に入居が開始されたUR賃貸住宅で、成田空港から車で30分、京成本線駒台駅からバスで約5分の距離に位置。人口減少が顕著で、約30年後には、現在の人口の半分以上になることが推計されている地域。近隣に多くの学校があるにもかかわらず、団地の年少人口は4%以下であり、高齢化が進んでいる。一方、外国人住民の割合は10%以上と市内で一番外国人が多い地区となっている。



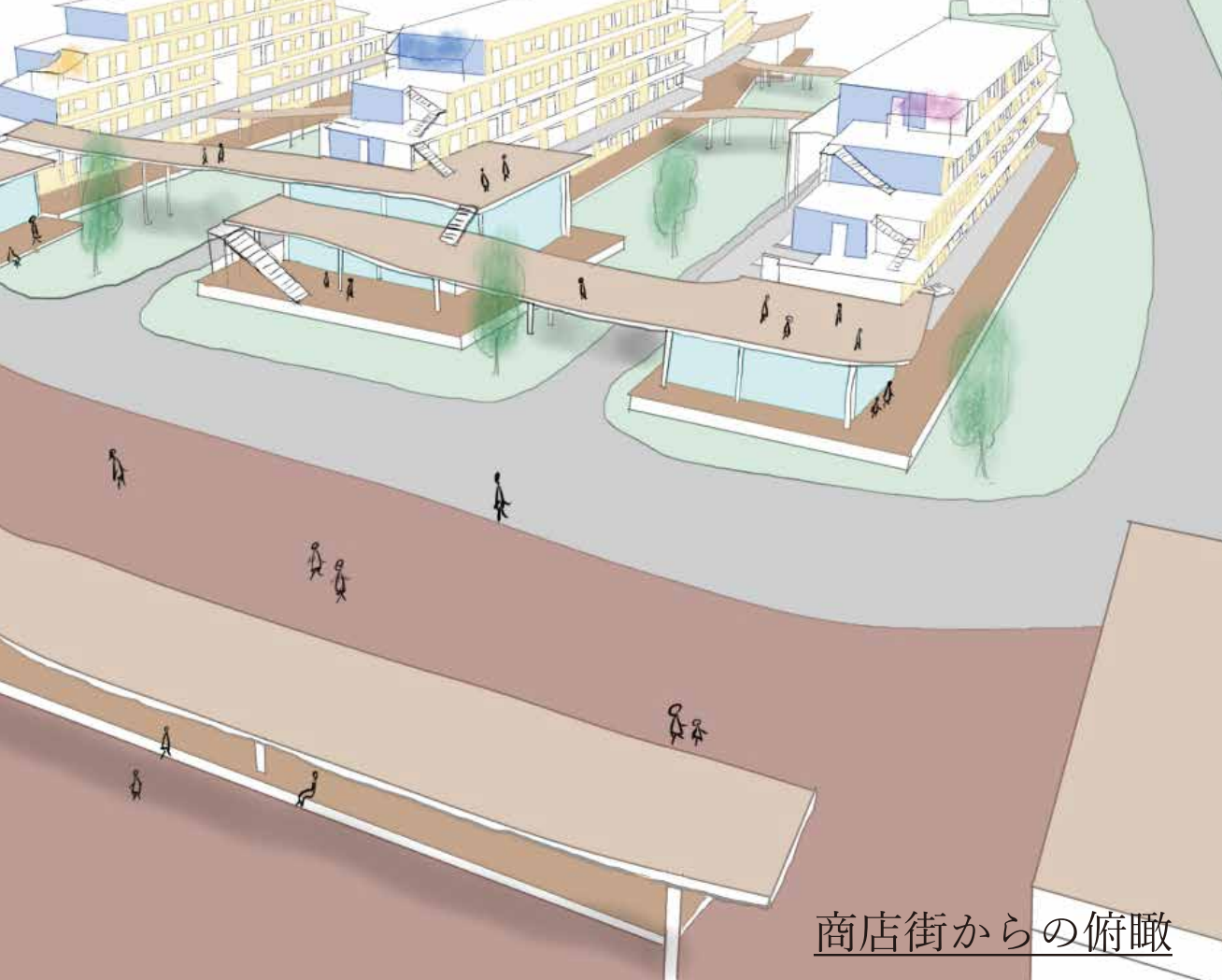
iii. コンソーシアムの提案



iv. ダイアグラム



敷地中央の歩行者専用道路を俯瞰する



商店街からの俯瞰



減築されてできる段にアクティビティが生じる

未来のコミュニティのための団地のリデザイン

